

と巷の亂 混雑報 八幡製鐵所に起

鐵製き凄物 八幡の怖恐

八幡製鐵所の爆發は 二月十六日
眞に遺憾の極

此の上は當局自仁長官
の誠意に俟たんのみ

八幡は遂に爆發した、過般來の沈靜は單に當局の高壓によつて一時の安を食つて居たに過ぎない、職工衷心の餘憤は尙熾々としてその安全瓣を求めねば止まなかつた。不安は漸次に濃厚になる恐怖の霧は漸く八幡全市に立て罩めて來た、此の危険なる情態を憂慮したる勞友會の幹部は談笑平和の間に八幡労働爭議の根本的解決を計らんと當局との折衝を重ねて居た、本社も亦此の情況を以て國家の不祥事となし勞友會の懇請により本社の加藤勅十を特派し穩健なる方法の下に相互の諒解に勉めて居た、然るに如何にせん當局の誠意充分ならず、加藤特派員の苦心も亦水泡に歸し、特派員が社用を以て筑豊地方に旅行中突如として勃發の不幸を見るに至つたのは本社の頗る遺憾とする處である。

されど事茲に至つては既に天意のみ微少なる一私人のよくす可き所にあらず、

會旗先頭に
大示威

八幡市中を練
る百餘の職工

二萬の職工例令

餓死す

集團は

來援の

は、職工の暴徒視を招き、八幡市中を練る百餘の職工、二萬の職工例令、餓死す、集團は、來援の

當局は全然

暴徒視

自仁長官急
遣本所歸任

職工の暴徒視を招き、八幡市中を練る百餘の職工、二萬の職工例令、餓死す、集團は、來援の

診療
診察